

研究内容の説明文

献血者説明用課題名※ (括弧内は申請課題名)	2009-2010 年に採血された保管検体を用いた 日本人の抗 A・抗 B 抗体価低下の調査 (献血者における抗 A・抗 B 抗体価 低下の調査)
研究期間 (西暦)	2020 年 4 月～2023 年 3 月 31 日
研究機関名	日本赤十字社 関東甲信越ブロック血液センター
研究責任者職氏名	検査部 検査開発課 血液製剤技術専門員 三瓶 雅迪

※理解しやすく、平易な文言を使用した課題名

研究の説明

1 研究の目的・意義・予測される研究の成果等

ヒトの ABO 血液型は A 型・B 型・O 型・AB 型に分類されますが、ABO 血液型においては自己の赤血球上に存在しない抗原に対する抗体 (抗 A・抗 B) を持ち、これら抗体の有無を ABO 血液型が分かっている赤血球と反応させることで確認します。近年、献血者の抗 A・抗 B 抗体価が過去と比べ低下している可能性があり、現在日本の献血者では抗 A・抗 B の抗体価がどの程度なのか調査することを本研究の目的とします。得られた情報は、血液事業の血液型検査を最適化する上で貴重なエビデンスとなります。なお、本説明文の対象は 2009-2010 年に献血にご協力頂いた方です。

2 使用する献血血液等の種類・情報の項目 (対象：関東甲信越・北海道ブロック内献血)

献血血液の種類：2009-2010 年に採血された保管検体、
(2019-2022 年の献血者血液型検査用検体、2022 年の生化学/感染症検査用検体)

献血血液の情報：献血者の献血時年齢・性別、採血日、採血番号、血液型および生化学・血球計数・感染症検査結果、身長・体重、2010-2012 年に採血され血小板製剤出荷時に測定された抗 A・抗 B 抗体価測定値、採血時刻・検査実施バッチ (検査実施時刻)

3 献血血液等を使用する共同研究機関及びその研究責任者氏名
なし

4 研究方法《情報の具体的な使用目的・使用方法含む》

献血血液等のヒト遺伝子解析：■行いません。 □行います。

2019-2022 年採血の血液型検査用検体 12,000 件と、抗体価低下を評価する対照として 2009-2010 年採血の保管検体 12,000 件の、提供者である献血者の性別と年齢を確認します。検体を性別・年齢別に分類し抗 A・抗 B 抗体価を測定します。過去と現在、各年齢、各性別の献血者の抗体価測定値を比べます。また、抗 A・抗 B 抗体価の変動要因を特定するため、抗 A・抗 B 抗体価と生化学・血球計数・感染症検査結果および採血時刻・検査実施バッチ (検査実施時刻) の相関を調べます。

長期冷凍保存による保管検体の劣化を評価するため、2010-2012 年に測定された抗 A・抗 B 抗体価と、現在の抗 A・抗 B 抗体価を比べます。

- 5 検査結果等の使用の拒否について
本研究で使用される試料・情報に関して、その該当者は使用の差し止め等を請求することができます。
- 6 上記5を受け付ける方法
お問い合わせ（研究への使用の差し止め等）は以下にご連絡ください。

本研究に関する問い合わせ先

所属	日本赤十字社 関東甲信越ブロック血液センター 検査部検査開発課
担当者	三瓶 雅迪
電話	03-5534-7679
E-mail	m-mikame.nc@ktns.bbc.jrc.or.jp